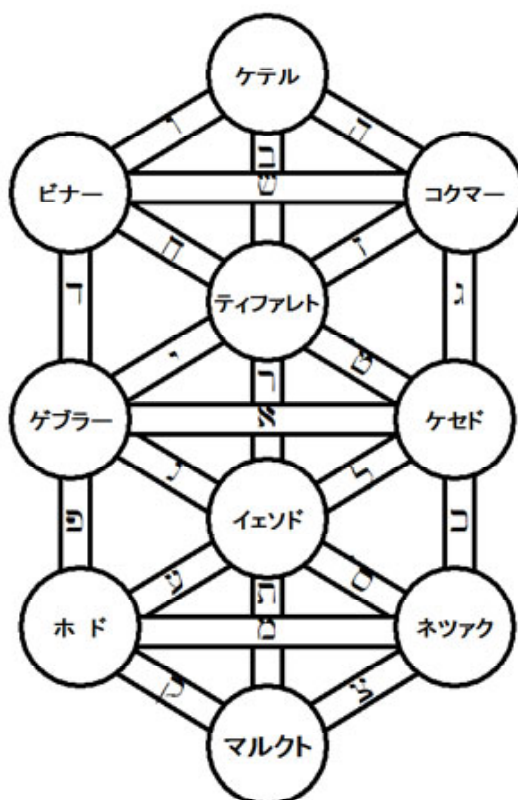


秋 分 儀 式

I ∴ O ∴ S ∴ 儀式魔術文書 AE08A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I ∴ O ∴ S ∴

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I ∴ O ∴ S ∴

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I ∴ O ∴ S ∴ ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式 (Astral Temple Working) として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。2008年の秋分点通過は、9月23日0時44分(日本標準時)である。

儀式内容は、起誓言の公式を利用して秋分の祝祭を実施する。

1 神殿作業

(1) 楽園の木

I ∴ O ∴ S ∴ のアストラル神殿は、基本的にセフィロト神殿として構築されている。

従って、神殿はセフィロトの木を模して連結され、神殿間の移動は伝統的な小径に沿って行われる。小径の構成とは決して一つではない。楽園喪失以前は、セフィロトの木は緊密に連携し菱形を重ねたような構造をしていた。⁽¹⁾

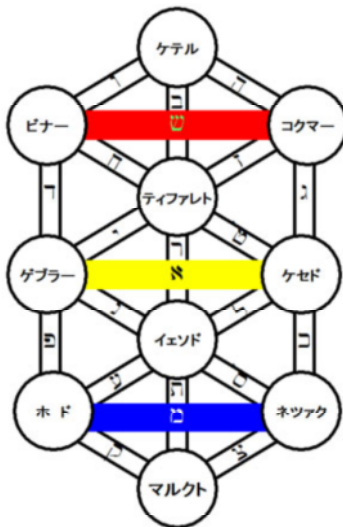
楽園においては三文字アレフ、メモ、シンは三本の水平の小径に位置づけられている。

『セフェル・イエツィラー』に曰く、「天は火で創られ、大地は水で創られ、風は息吹からなり両者の間に定められた。」⁽²⁾

従って、下図にあるように、コクマーとビナーを結ぶ小径はシンの小径であり、「火の平面」と呼ばれる。

ネツァクとホドを結ぶ小径は、メモの小径であり、「水の平面」と呼ばれる。

両者の中間にあり、ケセドとゲブラーを結ぶ小径は、アレフの小径であり、「風の平面」と呼ばれる。



楽園喪失以前のセフィロトの木は、喪失後の引き延ばされた木よりも強い力で結びついている。従って、セフィロト間の移動はアストラル神殿儀式で行うような簡易なものとはならない。

マルクトからイエソドへの移動は、水の平面を弓とし、ネツァクとホドに向かう二つの小径を引き絞った弓の弦として、垂直に登る矢として上昇する。

同様にイエソドからティファレトへ、ティファレトからケテルへの上昇は各平面と斜めの小径を使って行われる。しかし、楽園のケテルに到達することはできない。楽園喪失後の人間には、原ケテルの清浄さは耐えられないからだ。

結果として、楽園のマルクトに入った参加者は、三回の連続した射出により、楽園のダースに到達する。

くれぐれも楽園を歩む者は、小径を混同することなかれ。容易に判断できると思うが、楽園喪失後のティファレト以下の墜落により、小径は大きく繋ぎ変えられている。

また、異なる伝承によれば、マルクトを除外し、ティファレトの位置にダースを入れた木も存在するが、その場合はマルクトの

接点を失った我々は楽園喪失以前のセフィロト神殿には入れないことになる。

従って、この儀式では10セフィロトは現在と同じ属性を有し、未生のダースがビナーとコクマーの間に隠れている。

(2) 水の平面

「エロヒムは言われた。水 (מֵי) の間に蒼穹 (רָקִיעַ) があり、水と水とを分けよ。」
(『創世記』1章6)

マルクト神殿にあり、ネツァクを望むとツァダイの小径が、ホドを望むとコフの小径が開け、

(1) Tree by Eliahu (ben Shlomo) Gaon of Vilna, "The Gra" 1720-1797, in Aryeh Kaplan, *Sefer Yetzirah*, York Beach : Samuel Weiser, 1991, p.30.

(2) Aryeh Kaplan, *Sefer Yetzirah*, p.145.

中央にタウの小径が開ける。

ソロモン・イブン・ガビロールの高名な著作『王国の王冠（ケテル・マルクト）』には、10プラス22として計32の小径に対応するスタンザが描かれている。ここでは第28、第29及び第32のスタンザが弓を射るために用いられる。⁽³⁾

(3) 風の平面

『セフェル・イエツィラー』（3：7）に曰く、「かれは文字アレフを息吹き之王として創造した。・・・宇宙の風（אֵלֶּף）、年の温暖（חַיִּים）な時期、魂の胸部（גִּיּוֹן）である。」⁽⁴⁾

風	AVIR (אֵלֶּף)
温暖	RVIH (חַיִּים)
胸部	GVIH (גִּיּוֹן)

アレフに対応する三つのヘブル語は、V I Hを含む。
聖四文字のヨド、ヘー、ヴァウは、メモ、シン、アレフに対応する。風はAVIRでVIRだが、カプラン氏は原型はAVIHであったと推定している。⁽⁵⁾

『バライタ』によれば、蒼穹の門の東側を守護する天使は二人、右にマシム（מַשִּׁימ）、左にカルミエル（קַרְמִיֵּל）である。⁽⁶⁾そして、中央の天使はアレグエル（אֶלְגֵּ'עַל）となる。これら三天使が弓を射る助けとなる。

(4) 火の平面

モーシェ・コルドヴェロの『石榴の園』の「第32の門」は、「カヴァナーの門」と別名が付されている。聖四文字に関するヘブル語の発音記号との関係は、次のとおり。⁽⁷⁾

ヨドの頂点	ケテル	カメッツ	長 a
ヨド	コクマー	パタハ	短 a
ヘー	ビナー	ツエレ	長 e
ヴァウ	6セフィロト	コレム	長 o
ヘー	マルクト	なし	

聖四文字を構成するヨド・ヘー・ヴァウの三文字を名前の中核とし、コクマー、ビナー及びティファレトに対応する発音記号により展開し、アリの第一のユキドの概念により再構成すると三つの時代の天使名が現れる。⁽⁸⁾

現在の天使	ヨーホーヴォエル (יְהוֹוֵה)	コレム	ティファレト
過去の天使	ヤハヴァエル (יְהוָה)	パタハ	コクマー
未来の天使	ヤーハーヴィエル (יְהוֹוֵה)	ツエレ	ビナー

これら三天使が弓を射る助けとなる。

なお、火の平面界にダースが隠れており、これは楽園喪失後に虚のセフィラ、ダースとして顕現し、コクマー、ビナー、ダースの頭文字を取りカバド神秘主義というハシディズムの一派を生成する端緒となる。

(3) Joseph Dan, *The Heart and the Fountain*, Oxford : Oxford University Press, 2002, pp.92-94

(4) Aryeh Kaplan, *Sefer Yetzirah*, p.152.

(5) Aryeh Kaplan, *Sefer Yetzirah*, p.153, p.368 n.41.

(6) Baraita on the work of creation, in Ed.by David Meltzer, *The Secret Garden*, Station Hills Opening : Barrytown, Ltd, 1998, p.8.

(7) Aryeh Kaplan, *Meditation and Kabbalah*, York Beach : Samuel Weiser, 1982, p.185.

(8) Aryeh Kaplan, *Meditation and Kabbalah*, pp.236-239.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P Cは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) トラクトの活用

儀式の構成に必要な聖言等を『パライタ・ド・マセー・ベレシト』及び『シャール・ルアク・ハ・コデシュ』から引用した。

(2) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (□□□□)」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽⁹⁾

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽¹⁰⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。

「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈禱する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽¹¹⁾

(2) 聖四文字の呼吸

バルディチェブのラビ・レヴィ・イーチャクの見解によれば、聖四文字「□□□□」の前半の二文字「□□」は「無の性質」を、後半の二文字「□□」は「有の性質」を表す。「有の性質」は、われわれが自然界と認知する存在の階層をあらわす。そして、「無の性質」は、霊的世界と認知する存在の階層をあらわす。従って、物質界において「□□」の意識を獲得すれば、物質を超越することができる。

また、ペリマー (□□□□) という単語は、「なし」という意味のペリ (□□□□) と「何か」という意味のマー (□□) を結びつけた単語であり、旧約聖書の中ではただ一か所 (『ヨブ記』26章7) に使われている。その意味は「何ものもなし」となる。

『セフェル・イエツィラー』においてはセフィロト・ペリマーとして十の原数として現され

(9) Janowitz, *Icons of Power*, pp. 79f.

(10) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp. 231, 280.

(11) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p. 317f.

た。その際、ペリマーはアイン・ソフと同義と解釈される。⁽¹²⁾

従って、この聖四文字の呼吸法においては、ペリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、「ㄇ」を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽¹³⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群⁽¹⁴⁾」、言語入力での混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽¹⁵⁾）などを利用する。

(4) 呪文の構成

呪歌及び神聖名を使用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(12) ゲルショム・ショーレム 「初期カバラにおける聖書の神とプロティノスの神の戦い」

『エラノス叢書 10 創造の形態学 I』 平凡社、1990年、235-236頁。

(13) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p. 30.

(14) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(15) グザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I.O.S.の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אָרִיִּס סַסְטִיִּי)

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(אבג בגג)

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」(אר'ם ת'פא)

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אור'ם סס'י אה)

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אבית תל בג אר י'ו די'אל)

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(או פאך ק'טר סס אחר י'ד'ד י'ה)

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」(אור'פת י'הו ח'יו י'ו ז'הו י'הו ת'יתס)

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。
「I・O・Sの神殿に四方位の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

PC:「エロウィー
 ('וְאֵלֹהִים הָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー
 ('וְשָׁמַח שְׂוֵאָה בְּנִשְׁחָמָהּ הָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד.) (18)
 テホラー・ヒー
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 アター・バラター
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 アター・ヤツアルター
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 アター・ネファクター・ビー
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)
 ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー
 ('וְהָיָה כֹּחַ הַיָּסוֹד כֹּחַ הַיָּסוֹד.)

全員：「パラフター・ヴェ・ヤツアルター
(אֶתְּךָ וְאֶתְּךָ אֶתְּךָ אֶתְּךָ 創造と形成)」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

P C : 「ヒー・ネイ・ニー (ㄴᆞᆫ ᆞᆺᆞᆫ われはここに)
 ヒー・ネイ・ニー (ㄴᆞᆫ ᆞᆺᆞᆫ われはここに)
 ヒー・ネイ・アーニー・ヤー (ᆞᆫ ㄴᆞᆫ ᆞᆺᆞᆫ われはここに、神の息吹の)
 アナ・ホウシーアー (ᆞᆫᆞᆫᆞᆫ ㄴᆞᆫ 加護のあらんことを) 」

全員：「ヤー・アナ・ハウシーアー
(יהושע יח יח 息吹の加護あらんこと)」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。
 PC：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ベーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）
 全員：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ベーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。
雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。
その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。
その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。
これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC: 「アーニー・ポー (172 頁) われと名前なきもの」
 アーニー・ポー (172 頁) われと名前なきもの」

(16) 来る(בָּרַח)の変化形(בָּרַח)は、「霊が我がうちに入りたり(וַיָּבֹא בִּי רוּחַ)」(『エゼキエル書』2:2)のように使われる。

エロヘイ・イスラーエル (עֲלֵהּ יְיָ אֱלֹהֵינוּ 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (עֲלֵהּ יְיָ אֱלֹהֵינוּ 主の力よ)」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P Cは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠍宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵינוּ われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵינוּ われと名前なきもの)
ホウシーアナ (הוֹשִׁיעַנוּ אֱלֹהֵינוּ われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ (הוֹשִׁיעַנוּ אֱלֹהֵינוּ われを助けよ)」

P Cはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヴァウ」(呼气)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員：「ヴァウ」(呼气)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P Cは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵינוּ われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵינוּ われと名前なきもの)
エレツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן קַדְשָׁנוּ カナンの地よ)」

全員：「エレツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן קַדְשָׁנוּ カナンの地よ)」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

罪は猶予されるであらうー主の前で購われるならば、あたまひとつもなかりしやー」

PCは東面したまま、高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー
(קְבוּץ שְׂדֵי לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
(שְׂדֵי לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה קְבוּץ 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・ゲー・リアー (סַתִּימוּ וְגֵי לִיָּא)」

全員：「隠され開示されたり。」

PCはブラクティカスのサインを描き、タウの小径へ踏み出す。

参加者はタウの小径に入る。風に乗り、マルクトの神殿を離れると、鱗のような波の広がる青海原の上を飛翔していた。その高さは500メートルから1000メートルにも達する上空を風に支えられ飛び続ける。前方には雷雲が巻き上がり、黒い上昇する雲海のなかから雷光が閃いている。まさしくこの大海原こそがネツァクとホドを結ぶ水の平面界である。それは同時に『創世記』に語られた「下なる水」である。視線を上を転じると空いっぱいの輝き（シェハキム）が広がり、それが「上なる水」、つまり火の平面界であることがわかる。

前方の雷雲が急速に広がり、左右に炸裂する稲妻の形づくる回廊のなかを飛び抜けて黒雲の門に入る。雲を抜け、イエソド神殿に入った。

8 第2の矢（原イエソドから原ティファレトへ）

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは宣言する

「アーニー・ヴァーホー・ハウシーアー・ナー
(אֲנִי וְהוֹרֵי הַיָּם וְהַיָּבֵשׁ)
われとかれと、今ここに加護のあらんことを)」

祭壇上のエデン図を回転させ、上下を反転させる。

PCはすかさず言う。

「アーニー・ホウアー・ラーウー
(אֲנִי וְהוֹרֵי הַיָּם וְהַיָּבֵשׁ われこそかれなり)」

PCは右回りに神殿の南東に行き、右の天使に呼びかける。⁽¹⁹⁾

「領域の上に深淵あり
深淵の上にトフー（形なきもの）あり
トフーの上にボフー（虚しきもの）あり
ボフーの上に大いなる水あり
大いなる水の上に流れがあり
流れの上に世界がある
マシム (מַשִּׁימָה)、蒼穹の門の守護者よ
門を通過するわれらを助けよ」

PCは神殿の北東に行き、左の天使に呼びかける。

「世界の上に山々があり、
丘があり、住处がある
日くー山々はわが前で震え、丘がたつー
カルミエル (קַרְמֵיֶל)、蒼穹の門の守護者よ
門を通過するわれらを助けよ」

(19) Braita on the work of creation, op. cit., p. 6.

PCは神殿の東に行き、正面の天使に呼びかける。
「世界の上にいまひとつの深淵あり
深淵の上にトフーあり
トフーの上にボフーあり
ボフーの上に大いなる水あり
大いなる水の上に流れがある
アレゲエル（אלגל））、蒼穹の門の守護者よ
門を通過するわれらを助けよ」

PCは東面したまま、高らかに唄い始める。
PC：「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
（לִי יֵשׁוּעַ שְׁמוֹנֶה עָשָׂר קְבוּלָה לְךָ 汝が導きにわが望みを主よ。）
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー
（שְׁמוֹנֶה עָשָׂר קְבוּלָה לְךָ 我が望みを主の導かれるままに。）
シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
（לִי יֵשׁוּעַ שְׁמוֹנֶה עָשָׂר קְבוּלָה 主の導きに我が望みを。）」

PC：「サティーム・ヴェ・グー・リアー（סַתִּימ וְגוּ לִיָּא）」
全員：「隠され開示されたり。」

PCはセオリカスのサインを描き、レシュの小径へ踏み出す。
参加者はレシュの小径に入る。暗い夜の海面上に竜巻が天空に向け伸びていった。水蒸気を可視化しながら、白い渦が旋回し、たちまちよりあわされて蠕動する糸となり上空へ伸びていく。やがて空を重く閉ざした雲の下面が渦を巻きはじめ、海面から上へ伸びていく渦と対称的な、雲海から下へ伸びていく渦を形成する。上下から二匹の竜が絡みあうように、渦は結合し、天と海をつなぐ巨大な竜巻となった。同じように、幾本もの竜巻が現れ、空気を激しく攪拌する。たちまち、強い上昇気流に捕まり、雲の上まで吹き上げられた。雲を抜けると夜空が広がっている。この静謐な空と、荒れ狂う雲海がケセドとゲブラーを結ぶ風の平面界である。つまり、「下なる水と上なる水を隔てる蒼穹」である。前方の夜空に光が射し始めた。雲海が赤く輝き始める。日の出が近い。やがて、強い輝きとともに太陽が雲海に昇り始めた。あなたはその太陽に向け飛行し、めくるめく輝きのなかに呑み込まれる。太陽、つまり、ティファレト神殿に入った。

9 第3の矢（原ティファレトから未生のダースへ）

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは宣言する
「アーニー・ヴァーホー・ハウシーアー・ナー
（אֶרְנִי וְהוֹ הוּסִי אֶנֶר
われとかれと、今ここに加護のあらんことを）」

祭壇上のエデン図を回転させ、上下を反転させる。
PCはすかさず言う。

「アーニー・ホウアー・アーニー
（אֶרְנִי הוּסִי אֶרְנִי われこそかれなり、かれこそわれなり）」

PCは右回りに神殿の南東に行き、過去の天使に呼びかける。
「ヨド ヒー ヴィヴ ヒー（יָדוּ הִי וִיבִי הִי）」
父なるコクマーと母なるビナーを、聖なる者のネシャマーのネシャマーにより結合せん
コクマーの天使、地球の過去を司るヤハヴァエル（יָהוּבֵאל）よ
アブの力もて、われの上昇を助けよ」

PCは神殿の北東に行き、未来の天使に呼びかける。
「ヨド ヒー ヴァヴ ヒー（יָדוּ הִי וֵאֵבֵי הִי）」
女性的なる水を、聖なる者のネシャマーにより導かん
ビナーの天使、地球の未来を司るヤーハーヴィエル（יָהֵרֵבֵאל）よ

サグの力もて、われの上昇を助けよ」

P Cは神殿の東に行き、現在の天使に呼びかける。

「ヤーフーヴィーフー (יָהוּוּ וִיפּוּ) 」

男性的なるものと女性的なるものの調停者よ

ケテルの天使、地球の今を司るヨーホーヴォエル (יְהוֹהוּוֹאֵל) よ

結合の力もて、われの上昇を助けよ」

P Cは東面したまま、高らかに唄い始める。

P C : 「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵשׁוּעַ אֶחָיָה קְבוּץ שְׂדֵי 汝が導きにわが望みを主よ。)

キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー
(קְבוּץ שְׂדֵי לִי יֵשׁוּעַ אֶחָיָה 我が望みを主の導かれるままに。)

シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
(שְׂדֵי לִי יֵשׁוּעַ אֶחָיָה קְבוּץ 主の導きに我が望みを。)

P C : 「サティームー・ヴェ・グー・リアー (סַתִּימוּ וְגוּ לִיָּא) 」

全員 : 「隠され開示されたり。」

P Cはフィロソファスのサインを描き、ベスの小径へ踏み出す。

参加者はベスの小径に入る。参加者は太陽の火のなかに飛び込んだ。左右前後、上下に至るまで紅蓮の炎が覆い尽くしている。炎は渦を巻き、集合し、巨大な火の河を形成する。それは太陽のプロミネンスであり、いくつもの山々を丸ごと灰にしてしまえる炎の噴流であった。この炎の河は前方の全き光の球に吸い込まれていく。それがケテル神殿である。しかし、原エデンのケテルは人間の踏み込む場所ではない。あなたは、ケテルの手前に炎の河が滞留する虚の場所を見つけた。そこそはエデンが崩壊したあと、ダースとなる場所である。

あなたは、火が暗く騒ぐ場所に吸い込まれ、ダース神殿に入った。

10 未生のダースにおける秋分の主祭

水と風と火の平面界を超えて到達したダースは未だ生まれざる虚のセフィラである。
明るくも暗くもない、熱くも冷たくもない空間に自然石の祭壇が置かれていた。

P Cは祭壇の西に行き、西を向いて語る。

「この地、ダースは無に帰属 (ミダット・ハ・アイン) する。

すべての存在 (イエシエト) は、神性 (アツムート) なくして実在 (キユーム) しない。

この地では、対立物の結合 (ハシャヴァー) がなされる。

天上の火と天上の水は、ダースにおいて融合する。

従って、コクマー、ピナー、ダース、すなわち ׀׀׀ こそ鍵である。」⁽²⁰⁾

P Cは、神殿の北に行き、炎と煙の柱を背負い南を向いて言う。

「この荒野は、光と闇の至聖処なり。

今、荒野の上に秋分の太陽があり、

光は闇と均衡せんとしている。

われは律法の宰相として、

秋分の執行を宣言する。」

P Cは、神殿の東側から中央を向いて言う。

P C : 「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)

H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)

(20) Rachel Elior, "HaBaD : The Contemplative Ascent to God ", in *Jewish Spirituality from the Sixteen Century Revival to the Present*, II, New York : Cross Road Publishing, 1987, pp.157-205.

V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ) 」

P Cが宣言する。

P C：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

P C：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

P Cは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

P C：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

P Cは、祭壇の東に廻り、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

P C：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

P C：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

P C：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

11 エデンからの帰還と諸天使の出立

P Cは帰還を宣言する。

「ベス、レシュ、タウの小径を通り、エシュ、アウィル、マイムの平面を超え、
第四の元素、アレツツの神殿に帰還せん。」

「リーボイノイ・シェル・オイローム

(לוינוי שרל אוירום 宇宙の主よ)

ハーレニー・モーケル・リー

(הרני מוקל ליי われは寛恕す)

アードーニー・ツェウリー・ヴェ・ゴーアラー

(אדוני צווריי וי גוארר 主、わが岩、わが贖い主よ)」⁽²¹⁾

ダース神殿の床に三本の小径と三つの平面界で構成される巨大な六芒星が浮かびあがった。
あなたは、P Cとともにこの六芒星の中間を通過し、瞬時にマルクト神殿に帰還した。

P Cは祭壇に行きエデン図を回転し、正位置とする。祭壇の北に廻り、南を向く。

P C：「律法の宰相の加護に感謝する。」

(21) Tamar Frankiel & Judy Greenfeld, *Entering the Temple of Dreams*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 2000, pp.65-75.

霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。

ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (יהוהיהוה)

万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。

ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (יהוהיהוה)

戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。

光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。

主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。

主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。

律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

12 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、

この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙が続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I . . O . . S . .
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO VII A

IMPRIMI POTEST: I . . O . . S . .
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M. E. S. A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCXVIII

秋分儀式 A E O 8 A

Copyrights © All rights reserved I . . O . . S . . 2008

2008年9月15日 I . . O . . S . . 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I . . O . . S . . の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I . . O . . S . . の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。